

白梅会報

発行所 宮城県古川黎明中学校・高等学校同窓会 白梅会
〒989-6175 大崎市古川諏訪一丁目4番26号 電話 (0229) 22-3148

校歌

作詞 土井 晩翠
作曲 陸軍戸山学校
軍楽隊一、荒雄川 また鳴瀬川
流れ合ふ 大崎平野
水絶えぬ 郷に匂へる
なつかしのわれらの母校二、一念の「誠」のしるべ
朝夕の たゆまぬ「励」
かがやける 望みにみち
わがみがき 心きたへよ同窓会会長
千葉 典子

ごあいさつ

三月に百花に先がけて花をつけ、香りを四方に漂わせた梅も、今はその役目を終えて、翌春に向けて力を貯えるかのように校舎のまわりに葉を繁らせています。

同窓生の皆様にはお元気で過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会の活動にご理解とご支援をいただき、心より感謝致しております。

母校は今年で創立九十九年を迎えました。呼称が変わり、共学となり、そして中学校が併設され、より豊かな幅広い教育が展開されることとなりました。その活動は遠く海外まで及び、昔では想像出来ないほどグローバルになっていきます。部活動の活躍も耳目をひく目覚ましいものがあり、まさに文武両道の精神はしっかりと受け継がれているようです。

さて、来年はいよいよ創立百周年です。昨年より創立百周年記念事業実行委員会が立ち上がり、現在、同窓会名簿の発刊の作業が進行中です。皆様のお手元にはその旨のご案内があり、ご希望にそった申し込みをさせていただいたことと思います。皆様のご協力無くして成し得ない事業ですので、そのご支援に心より感謝申し上げます。その他の記念事業として百周年記念史の発刊を予定しております。大正九年の創立時より百年間の母校の歩みを、恩師の先生方や同窓生の声も交えての壮大な記録にまとめます。数々のエピソードも加わっての百年の歴史はまさに圧巻です。どうぞお手元に置いてお読みいただければ幸いです。その他の記念事業については実行委員会の検討を待つところですが、百周年の大きな節目として意義のある、そして後輩達の活躍への支援ともなれるような事業でなければならぬと思っております。今年末には全同窓生に百周年のお知らせをし、皆様に祝意を表していただくと共に、記念事業への協賛と協賛金をお願いをさせていただく予定です。是非ご協力の程、切にお願い申し上げます。

最後になりましたが母校の皆様の益々のご活躍、同窓会の発展、そして同窓生の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

「地域に発信！活躍する黎明生」



校長 小川 典昭

大崎市全戸に配布される「広報おさき」5月号の表紙を飾ったのは、「一筆入魂！令和」の始まりを飾る」と題された本校書道部の生徒たちでした。部員一人ひとりが一行ずつ分担し、語源である「万葉集」を揮毫し、最後に畳4枚分もある紙の中心に、自分の顔ほどにもなる筆で、たたきつけるように「令和」と表現する生徒の姿が写し出されていきました。先日、女学校時代に本校を卒業されたとお話しになる同窓生お二人が、本校を久しぶりに訪れてくださいました。広報をご覧になり、校内

「すこすぎたみんなへ」



恩師 梶原さい子 先生

手元に、平成十二年（二〇〇〇年）三月の卒業文集が残っています。表紙には「21世紀へGO！GO！GO！郷」という当時とてもレトロなフレーズ。巻頭の「クラスBEST3」という企画には「☆いつも白目の人」「☆今でもイナゴを食べる人」「☆今でもイナゴを食べる人」などの容赦ない項目があり苦笑してしまうのですが、読み進めながらその頃の感触がふわっと甦ってきました。

存分に部活をして、存分に行事に

に飾られている書道部の作品をご覧になりたいとのことでした。新しい時代の始まりに、本校生徒の活躍が同窓生の皆様にお伝えできたことをうれしく感じました。

また、うれしいニュースが舞い込んできました。毎年春に開催される高校生以上を対象とした、日本画、洋画と彫刻の公募展である河北美術展に、応募数790点の中から本校美術陶芸部の3人が同時入選を果たしました。大人に混じって同じ学校から高校生が3人も入選したこと、さらに普通科の本校から入選するのは「快挙」と、河北新報朝刊に記事が掲載されました。今年も佐賀県を中心に開催される夏の全国高等学校総合文化祭出場を決めている美術工芸部門の立体、写真部、吟詠剣詩舞愛好会と、文化部の活躍めざましい今年のスタートとなりました。

運動部は先日から高校総体が開幕、陸上部の女子が学校対抗でフィードの部優勝、総合で第5位。東北大

取り組んで、存分に勉強して、存分に「おだづ」。古女という場の力——魅力ある人々の存在と、伝統を受け継ぐ古女生としての誇りによる、そんな鮮やかな姿を、不思議に引き出していました。むろん、自らの価値や可能性に対して葛藤する人もいたでしょうが、それも含め、皆さんの存在は鮮やかなものでした。

文集に私が書いたメッセージがありました。

みんなは、すこい、すこすぎるものを持っていきます。それに気付いてね。尊敬していました。よくがんばるなあ、とか、なんでこんなに人を許せるのだろう、とか、感心していました。いろんな制約があるけど、つまんなくは生きないで。ありがとう。あこがれていました。

全くもって拙い書きぶりですが、これが、約二十年前の率直な気持ち

会に男女併せて13名が出場という素晴らしい成績を取めたのをはじめ、総体の前哨戦となる大崎地区総体では、弓道部が優勝、バスケットボール部、卓球部が男女とも県大会出場を果たすなど県大会予選を兼ねたブレッツァーのかかる試合を次々と勝ち抜くことができました。県のシールド校として活躍が期待されるハンドボール部もその実力を発揮しています。

同窓会のみなさまには平素より特段のご支援・ご協力を賜り、本校生徒を物心両面にわたって応援していただいておりますことに深く感謝申し上げます。来年度はいよいよ創立100周年の節目を迎えます。生徒のさらなる活躍を、本校教職員、保護者そして同窓会のみなさまのより一層のお力添えをいただきながら支えて参りたいと存じます。今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いするとともに、本年4月の着任のご挨拶とさせていただきます。

です。「生徒」に対して書いているという感覚がほぼ読み取れませんが、それだけ、皆さんは、面白くすばらしく、尊敬され憧れられる人間でした。

ロタリーの白梅、南校舎前の桜、玄関先の首なし像、噴水、自転車置場、体育館、校庭、部室、白梅会館、貧民パン、教室、課外、居眠り、クラス合宿、戴帽式、病院実習、お揃いのTシャツ、ほかむりにゴーグル、金閣寺、鹿、ストロブ、豚汁、焼芋、卒業式のパフォーマン、制服、スカートの下のジャージ、校歌のハーモニー、おはようございます。

平成九年から十七年までの九年間（古女八年+黎明一年）、お世話になりました。もうこの世には存在しない、夢のような時間と空間を、ひどく懐かしく思います。

過去3年間の卒業生の進路

	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	(H29.3月卒業生)		(H30.3月卒業生)		(H31.3月卒業生)	
	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数
国公立4年制大学	48	41	29	26	50	46
私立4年制大学	329	135	298	121	349	114
国公立短大	3	1			2	2
私立短期大学	11	10	16	11	22	17
大 学 校	2	1	1	1	1	1
専修各種学校	28		37		35	
公 務 員	6		4		10	
民間就職	3		5		3	
進 学 準 備	7		14		7	
そ の 他	0		2(海外進学1)		0	
卒 業 者 数	232		221		235	

過去3年間の卒業生の主な進路先

【国公立大学】

室蘭工業大、帯広畜産大、北海道大、北教大函館校、北教大釧路校、北見工大、弘前大、岩手大、宮城教育大、東北大、秋田大、国際教養大、山形大、福島大、茨城大、筑波大、宇都宮大、群馬大、埼玉大、千葉大、東京学芸大、東京農工大、横浜国立大、新潟大、信州大、富山大、山梨大、静岡大、防衛大学校、国立看護大学校、東北職能大学校、岩手県立大、宮城大、秋田公立美大、福島県立医科大、長岡造形大、群馬県立女子大、高崎経大、静岡県立大、千葉保健医療大、横浜市立大、神奈川保福大、山梨県立大、都留文科大、長野県立大

【私立大学】

札幌学院大、酪農学園大、青森中央学院大、八戸工業大、岩手医大、盛岡大、宮城学院女子大、尚絅学院大、石巻専修大、仙台大、仙台北百合女子大、東北医薬大、東北学院大、東北工大、東北生活文化大、東北福祉大、東北文化学園大、日赤秋田看護大、東北芸術工大、東北公益文科大、奥羽大、つくば国際大、国際医療福祉大、白鷗大、群馬パース大、埼玉工大、女子栄養大、文教大、獨協大、亀田医療大、秀明大、聖徳大、千葉科学大、千葉工大、和洋女子大、共立女子大、実践女子大、玉川大、駒澤大、国士館大、芝浦工大、順天堂大、昭和大、昭和女子大、跡見学園女子大、上智大、成蹊大、専修大、早稲田大、大妻女子大、大東文化大、拓殖大、中央大、津田塾大、帝京大、東京音大、東京工科大、東京女子体育大、東京農大、東京理大、東洋大、日本女子大、日本体育大、日本大、日本工業大、百合女子大、明治大、目白大、立教大、立正大、城西国際大、神田外語大、フェリス女子大、鎌倉女子大、関東学院大、北里大、神奈川大、東海大、洗足学園音大、東洋英和女学大、新潟医療福祉大、金沢工大、金城学院大、名古屋学院大、愛知学院大、花園大、立命館大、清心女子大、福岡大

【国公立短期大学】

山形県米沢女子短大、宮城誠真短大、聖和学園短大、仙台青葉学院短大、仙台赤門短大、創価女子短大、東邦音楽短大、跡見学園短大、大垣女子短大

【看護医療系専門学校】

気仙沼病附看護専、水沢学苑看護専、岩手看護専門学、美会仙台看護専、大崎市医師会附属看護学校、仙台市医師会看護専門、石巻赤十字看護専、仙台医療センター附看護、仙台徳洲看護専、東北労災看護専、都立荏原看護専、板橋中央看護専、獨協医大附看護、浦和学院専門学、戸田中央看護専、上尾中央看護専、旭中央病院附看護、千葉労災看護専、日本医大看護専、JR東京総合病、昭和医大附看護、横浜労災看護専、西宮市医師会看護専

【公務員・民間就職】

大崎市初級行政、大崎市病院事務、美里町職員、加美町職員、宮城県職、国家公務員仙台地方検察庁、国家公務員宮城労働局、国家公務員一般職東北、自衛官(候補生)、富谷市職員、宮城県警察官B、国家公務員関東甲信越税務、YKKAP株式会社、アイリスオーヤマ株式会社、アルプスアルパイン株式会社古川工場、大崎市管工事業協同組合、株式会社東亜レジ古川、株式会社西巻、株式会社古川ポンプ製作所、有限会社創電社、トヨタ東北株式会社、ヤマセレクトロニクス株式会社、有限会社パレット、株式会社共立メンテナンス、株式会社オリエンタルランド、西日本旅客鉄道株式会社

節目に立ち会う者として

進路指導部長 木村 秀一

今年度から進路指導部長を仰せつかった木村秀一です。同窓生の皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

実は私は昨年度一年間同窓会の事務局長を務めさせていただきました。千葉会長さんをはじめとする役員の方々、当番幹事さん、そして多くの同窓生の皆さんと深く関わることでできた一年は、僕にとっても楽しく充実した時間でした。特に各支部での総会や八月の本部総会の席で、同窓生の皆さんの母校を思うお気持ちと、後

輩たちのことを大切に思ってください。温かいお気持ちに触れることができ、あらためて古川高女、古川女子高、古川黎明中学校・高等学校の素晴らしさを認識することができました。

お世話になった多くの方々にこの場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。

昨年度の本部総会には、四期生の佐々木彩夏さんが校名改変以来初めて出席してくれて、同窓生の皆さんから割れんばかりの拍手で歓迎していただきました。学年主任として彼女を送った身として、皆さんの彼女への温かいお声がけはこれ以上ないほどの喜びでした。思えば彼女が在学中に、たくさんの同窓生と在校生の思い出が詰ま

った旧校舎が取り壊されました。いよいよ旧校舎を立ち退く日には生徒諸君と職員とで心を込めて雑巾がけをしてお別れしました。自分の受け持った学年の生徒たちには、この校舎で青春時代を過ごした多くの先輩たちに思いをはせ、この節目に立ち会う者の大切なつとめとして、先輩たちの分もこの校舎に感謝してお別れしようと話したものでした。

紙面の関係で多くはお話しできませんが、皆さんが愛した白梅と、中庭で毎年綺麗な花を咲かせてくれた紅梅のうちの幾本かは、今も僕の自宅の庭で、それまでと変わらず綺麗な花を咲かせてくれます。切り倒されていくのを見てどうにも我慢がならず、知り合い

の業者を急遽呼んで移植したのですが、その辺のいきさつはいずれまた機会のあるときにお話しさせていただきます。

結びに今春の卒業生の活躍を表にまとめさせていただきました。どうぞこれからも後輩たちを温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。



本部総会だより



平成三十年八月五日(日)グランド平成にて平成三十年度古川黎明中学校・高等学校同窓会白梅総会並びに懇親会が行われました。参加者は百八名。総会では全ての議案が承認されました。その後、当番幹事でもある管理栄養士 黒木孝子さんによる記念講演「食事の面からの健康をサポート」が行われました。懇親会は古川黎明高等学校吹奏楽部による演奏や、県内の道の駅等でパフォーマンス経験のあるブルーアーティスト 元さん&あやこさん(高五十一回卒)による生演奏に合わせたブルーアーティストショーが披露され、笑顔あふれる素晴らしい宴となりました。

来年度白梅総会は八月二日に開催予定です。同窓生の皆様の多くのご参加をお待ちしております。

支部だより

関東支部

一月の「四校新年の集い」では、古川工業ダンス部有志による若さ漲るパフォーマンスに、二百余名の参



加者から驚きと共に激励の大きな拍手が送られました。今年もずんだ餅を食べながら古里を思い四校が一つになりました。支部総会は「令和」の始まりと共に催され、古女高、黎明高の校旗の元に五十三名が集い、新任の小川校長先生はじめご来賓の皆様、熱いメッセージに心踊らせ、楽しい一時を過ごし来年の再会を誓いました。

支部長 萩原 節子

三本木支部



この交流会は先輩後輩の間柄ではありますが、学びを共にした仲間が母校を懐かしめる企画を致しております。今回も吉野作造記念館で行いました。館長の氏家仁様には古女の校長先生だった頃の思い出話を、学芸員の小嶋翔様には作家の与謝野晶子と平塚らいてうを研究された自作の図書を基に、二人が生きてきた頃の当時の女学生と古女の姿を比較しながら楽しくまとめて頂きました。同窓生の工藤聡美様には素敵なお話を伺いました。

田尻支部



アノ演奏をと、有意義なひと時でした。交流会最後は母校に向かい校舎見学をしました。新築した校舎を見学したあと食事しながら思い出話に花を咲かせました。

支部長 二郷 成子

春の総会には、会長、三浦副会長、牛米教頭、事務局、大友先生方がおいでになり学校の現状や後輩達の活躍を知ることができました。二十八年度はOGマ

ンドリンククラブの皆様の素晴らしい音色に魅了され、二十九年度は書道部の皆様のパフォーマンスと顧問の大山義男先生から「書道について」視覚的に映してのお話をいただきました。後輩達の素晴らしい筆さばきにも大変感動しました。三十年度は日赤の中川国利医師の「元外科医のつぶやき」と題して講演をいただきました。

秋の研修会は大崎市のバスを借り二十八年度は大崎市の文化財課の車田氏を講師に田尻の遺跡巡り、二十九年度は小松寺の国宝に指定された平安朝時代の木造千手観音坐像の見学や一の蔵等研修をしました。母校の発展を願い、会員自らも向上していくよう、頑張っています。

支部長 佐藤紀久子

同窓会各支部の事業報告 (H30年度)

- 5月20日(日) 関東支部総会 品川プリンスホテル
- 7月1日(日) 古川支部総会 グランド平成
- 7月15日(日) 田尻支部総会 沼部公民館
- 8月5日(日) 同窓会本部総会 グランド平成
- 9月23日(日) 三本木支部交流会 吉野作造記念館 ↓学校見学
- 11月17日(土) 仙台支部総会 葉時季 大原

14回生同期会の皆様より

百周年に向けて、二万円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

謹んでお悔み申し上げます。

恩師 菊地二郎先生(S21/46勤務) 理科教諭

同窓生 佐々木幹子様(S37卒)

同窓生 宮本 演子様(S17卒)

同窓生等がご逝去された際には、弔電をお送りいたしますので、同窓会までお知らせください。

同級生は今

『自ら切り開くこと』



平成12年卒
新田 陽子

母校の会報に載せる原稿執筆の依頼を頂き、当時クラスメイトだった皆は何をしているのかなととても懐かしい気持ちになりました。高校時代を思い返してみると、自分は目標を見失い、とりあえず早く卒業したいとだけ願っていました。

悶々とした10代が終わる頃、やっと自分のやりたいことが見つかり、留学を決意しました。ちょうど9・11のユースに世界中が戦々恐々としている中、家族の反対を押し切る形でアメリカに渡りました。とにかく退屈な状況から抜け出したい一心でした。アメリカでの生活は慣れない事だらけでしたが、多国籍の環境の中で文化や考え方の違いに直接触れ、とても勉強になりました。自分の視野の狭さ、無知さ、臆病さ、沢山のことに気づかされました。授業はいつも意見が飛び交う活気があり、ついて行くのに毎日必死でしたが、とても充実していました。大学卒業後はシアトルで1年間働き、帰国してからは東京で働くことになりました。

5年ほどアメリカで過ごし、逆カルチャーショックというものを感じながら日本にいる事が苦痛な時期もあり、早く脱却しようと仕事をしながら大学

3年に編入。卒業後はシンガポールにある米国系IT企業に就職しました。

その後シンガポール国内で日系アパレル企業に転職、10年越しで自分がやりたかった商品開発や売り上げの分析、予算管理を行う責任者のマーチャンダイザーのポジションに就く事ができました。この頃、Facebookで同級生と繋がりが始めており、そのうちの一人がキャビンクルーとして来星すると連絡を受け、高校卒業以来初めて会う事ができました。短い時間でしたが、古女時代の昔話ができ、友人の活躍がとても嬉しく貴重な時間でした。

その後、会社のシンガポール撤退で日本に帰国、現在はホテルの新店舗立上げという、全く違うフィールドで国内、海外を飛び回っています。今は海外プロジェクトを担当しており、知らない国へ送り込まれても、分からないことだらけでも、何とかオープンまで漕ぎ着けているのは、これまでの経験と友人と沢山の人の出會え、支えてもらえているからだ実感しています。

携帯電話を持たせてもらえなかった高校時代、連絡先も知らず疎遠になってしまっている同級生が殆どです。1年の半分以上家を空ける生活で会える機会はずいぶん少ないですが、近い将来お会い出来ればと願っています。

末筆ではございますが、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



『二十年続いているもの』



平成12年卒
新田 亜紀子

同窓生の皆様、そして恩師の先生方、お元気でしょうか？卒業から二十年の節目となる今年、伝統となっている同窓会の順番がやってきたことに月日の早さと懐かしさ、また新たなスタートを感じています。この「二十年」は、皆さんにとってどんな日々でしたでしょうか？

学生時代に進みたいと志した美術工芸の道で、私自身、この二十年を歩んできました。

楽しい時だけではなく、辛い時や涙が出る時もありましたが、古女での思い出や友達が、いつも心強く支えてくれているのを感じております。卒業後、私は秋田で金属工芸を学び、その後、美術工芸が盛んな北陸の地へ五年間技術修得のために行きました。男性が多い職人さんの中に女性の私が一人いて、はじめは不思議がられていました。毎日砂だらけになりながら、美術彫刻の中型をつくる仕事をしていた二十代前半。そこでつながった職人さんや多くの方々により、道をつないでいただき、さまざまな伝統技法を学びました。知れば知るほど奥深い世界……。この二十年関わってまだまだ学ぶことだらけです。現在は、大崎市に自身のアトリエとお店を置き、地元を拠点に装飾品

メインでの制作活動と子ども達に美術の楽しさを教える教室やワークショップを開いています。

そんな私が楽しみにしていることで、高校時代から続けているものがあります。それは当時所属の卓球部メンバーで行っていた部日誌です。同期七人で一人もかけることなく続けています。どこに住んでいてもメールや電話で繋がる時代ですが、日誌が届くたびに高校時代から変わらない手書きの文に温かみを感じています。それぞれ家族が増えたり、住む場所が変わったりしながらも続けてきたこの日誌も現在三十冊ほどです。これからも三十年、四十年と続けていくだろうと思います。

二〇二〇年には、創立百周年を迎える母校をいつも背中に感じながら、たくさんの先輩後輩のご活躍にも注目しつつ、また同級生の皆様、同窓生の皆様の健康とご多幸を願いながら、私自身も精一杯今後も歩んでいきたいと思っています。

編集後記

お忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

多くの方々との深い絆を再確認することができました。ありがとうございました。

同窓生の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

橋本 昌子、鈴木 尚美
木村 英恵、後藤 理恵
相澤 福美、石堂 里佳
青沼 郁子、笠原 純子
生出真由美